



12月号

平成7年12月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

田植え
肥沃な土に並ぶ早苗
なびく髪もそのままに
一本一本植えた

青刈り
灼熱の太陽 真つ青な空
流れる汗もぬぐわずに
一株一株刈った

しめ縄作り
乾燥したわらの香り
時がたつのも気にとめず
一筋一筋なつていく

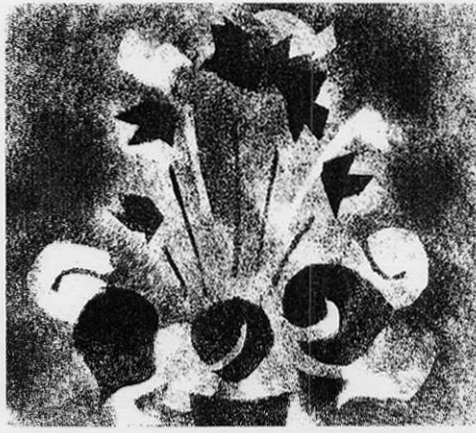
しめ縄作りができた
大門しめ縄の手ざわりを
今 この手で確かめた

へしめ縄作り



(しめ縄作り—大門小)

「教育」を考えるととき、その多くは教育内容や方法についてである。それは、誤りではなく、重要なことではある。十年ほど前に子供のいじめ、荒んだ学校がマスコミで問題になった時、圧倒的多数の論評が教師の指導法や教師と子供の関わりに関するものであった。それ自体は別に問題はない。しかし、学校の荒んだ様



相を単に教師と子供の関わり（社会的環境）だけで捉えるのではなく、教師と子供が同時に共有している校舎という物理的な環境からの影響にも目を向けたものだ。木材を研究対象とし、材料と人の情動的な関わりに関心のあった私は、常々こう思っていた。

そこで、当時の矢作東小学校の校

長であった山本昭先生にお願いし、教室の住み心地を温湿度の面から調べさせてもらった。その結果、居住環境としてはあまり好ましくないことがわかった。次いで、校舎が教師や子供にどのような影響を与えているのか、全国の木造校舎とその周辺にある鉄筋コンクリートの校舎とを比較しながら調べたところ、驚くほ

— 教育随想 —

校 舎

学 長
大 学 教 育 知 愛
中 学 校 岡 崎 附 属

橋 田 紘 洋



どの明瞭さで答えが出てきた。鉄筋

コンクリートの校舎の教師は疲労症状が強く、また児童も眠気やだるさ、注意集中の困難さなどが目立っていた。粗くいうならば、現在の鉄筋コンクリートの校舎では目的とする教育を施すためにはまず教師と子供の社会的環境の整備から始めなければならないが、木造校舎ではそれはす

でに整備されているということになる。

先年ドイツのシュタイナー学校を視察した際に、教室の壁面が低学年から高学年になるに従ってピンクからオレンジ、グリーン、ブルーと暖かい系統の淡い色から寒色系に変わっていくことに気づいた。聞いてみると、低学年は本来母親の懐に抱かれない存在であり、高学年は次第に独立して行くべき存在であるから、それに応じた環境を作っているとのことであった。この色彩の変化が妥当か否かは別に論ずることとして、少なくとも子供の教育をここまで細かく、丁寧に配慮する姿勢に頭の下がる思いがした。我国でも「文教施設のインテリジェント化」と称して学校施設の改善が図られているが、現状を見ている限りでは快適で豊かな環境が整備されるにはほど遠いようである。

学校教育は、教師と子供のやりとりが第一義的に重要であることは論を待たない。しかし、教育が有効に施されるためには、教師や子供をとりまく環境にも配慮することが大切であることを再認識したい。

(きった こうよう)



ぼくのだもん

特殊教育指導員

小 椋 弘 子

折った和紙を染料につける作業をする先生の手元に、目が吸い寄せられる。白い紙に、きれいな模様が現れる変化が、非常に魅力的で、子供たちはやりたくてたまらなくなる。

どうしてこうなるのという疑問より前に、視線が向き、自然に体が動いてくれる。そういう導入が、次のようにしてやどうやっての疑問を生む。さあ、みんなもやろうと、紙が配られる。ほとんどの子が手を動かす。しかし、とたんに自信がもてず気弱になったA男は、動けない。面白そう。でも、紙がうまく折れそうもないしな。やっぱりやめとこうか。どうしよう…。というところか。

それでも、平素ならやりたくないもんと言い捨てて、ふてくされるA男が、紙を手にかけている。紙を広げて現れた模様の鮮やかさに心が動い

ふるさとシリーズ

この人に聞く



日本漫画家協会会員

いしはら いずみ 氏

「手塚治虫さんにあこがれて…」
岡崎市でただひとりの日本漫画家協会の会員である、いしはらさんの言葉である。

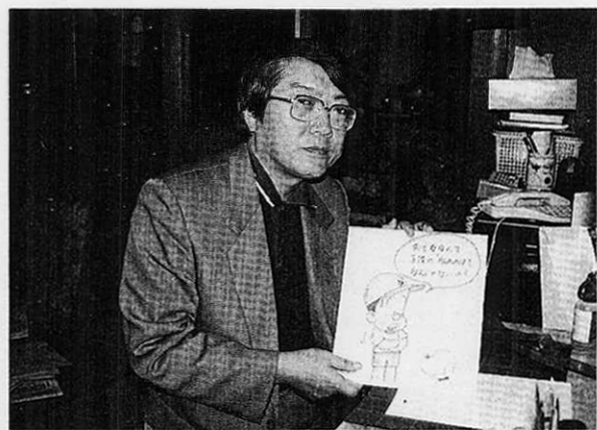
「今、七つ連載を持っています。勤めを終え、一度寝てから夜中に起きて二、三時間机に向かうのが日課ですね。アイデアが浮かばない時はつらいですよ。私の場合、目の前にあるもので発想します。例えばピンポン玉が目の前にあると、それが重くなったらどうなるかを連想するんです。」
手塚治虫氏の漫画を片っ端から読

み、「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝レオ」を書き写していた幼年期。「小学生の時、理科の時間に、動物の様子をB紙に描いて発表しました。その絵を先生が褒めてくれました。うれしかったなあ。大好きな先生だったので、よけいにうれしくて、漫画を描き始めるきっかけになりました。」

二十歳代に、新聞や雑誌に多く投稿され、それから本格的に描き始めている。その投稿の一番初めは、中学時代、この月報「岡崎の教育」の前身である「教育月報おさぎ」の一コマ漫画の募集だったという。

いしはらさんの漫画の多くは、世の中の出来事をユーモアたっぷりに風刺している作品が多い。声高に訴えるわけではないが、漫画としての特性を生かし、読み手に深く考えさせる作品ばかりである。

「私は人前に出るのは苦手なので、漫画で表現するのが一番自分を出



しやすいんです。世の中には当たり前のことが多いのですが、それが大丈夫かなあ、と思うことがあります。地震にしろ、車の排気ガスにしろ、タバコの煙にしろ、世の中に絶対はないんです。だからこそ、漫画の表現する余地があると思うのです。私の理想はサイレント漫画です。これなら、世界中の誰でも理解できますからね。」
ことばを超えた漫画。いしはらさんなら可能な気がしてならない。

氏名 石原 泉
生年月日 昭和十九年八月十三日
住所 保母町下越地五八

たのだろう。S先生は、A男の不安をとりのぞくように、ゆっくり折った。A男は、おそろおそろ一枚折り、安心してもう一枚折った。

折れた二つを両手に持ち、同時に二つの広口の色のびんにつけて、染め始めたA男。どんなもんだいとはかりに得意そうな顔で、二つ目の角を染めようとして、手首をいろいろにひねって見たが、持ち替えることができず、ついに叫んだ。

「助けてくれえ。」

染め上がった和紙を広げて、みんなで鑑賞した。どれが好きかという先生の問いに、A男は自分の二枚を、ためらうことなく指さした。

「どこが好きですか。」

「僕が作ったんだもん。」

こんなに愛らしい自己主張。この学習で満足したからこそ、胸を張っての自己評価ではないだろうか。

S先生と補助にまわったK先生の個々を見る確かな眼。参観の先生たちの応援の眼が、この子供たちの意欲につながっていた。

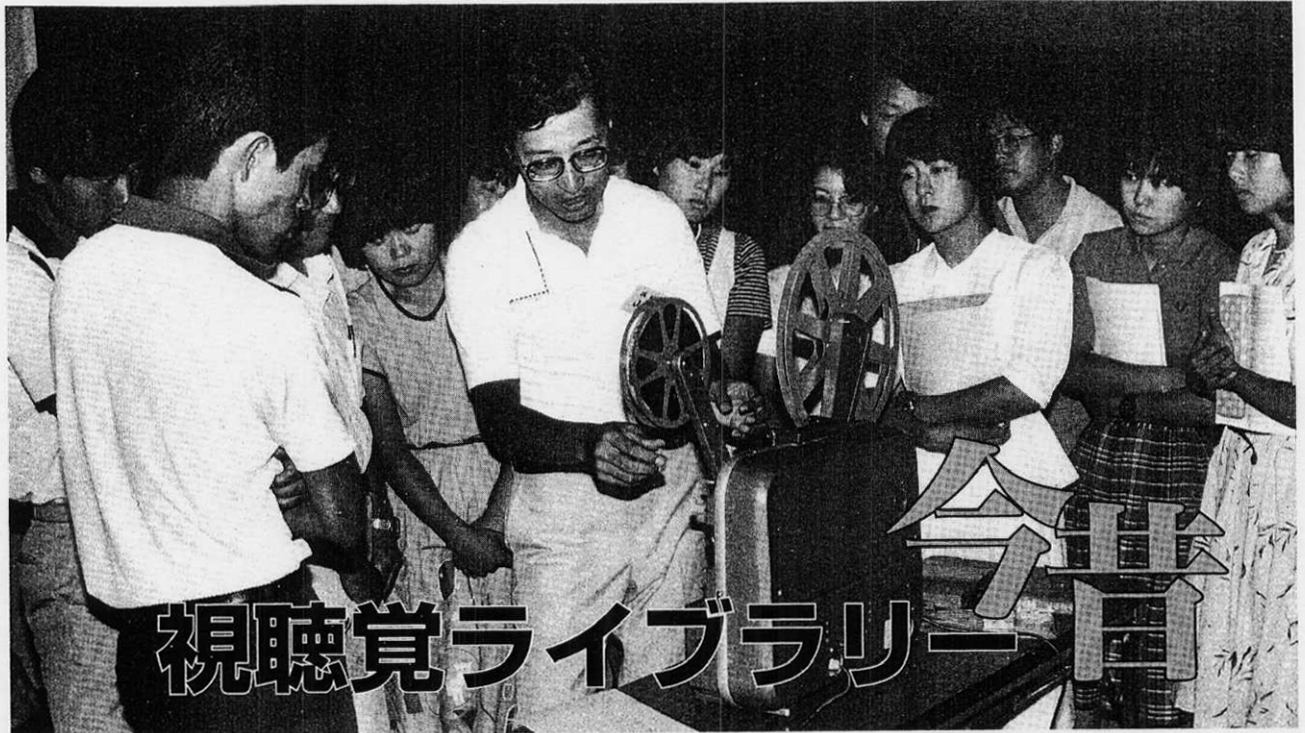
【推薦する専門書】

【心身障害辞典】

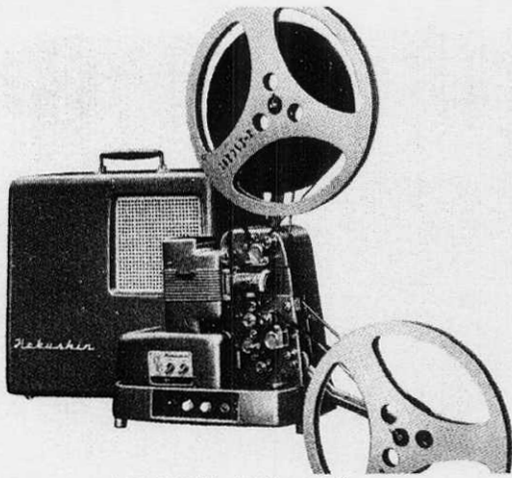
福村出版

【障害をもつ子どもの学習の日常指導】

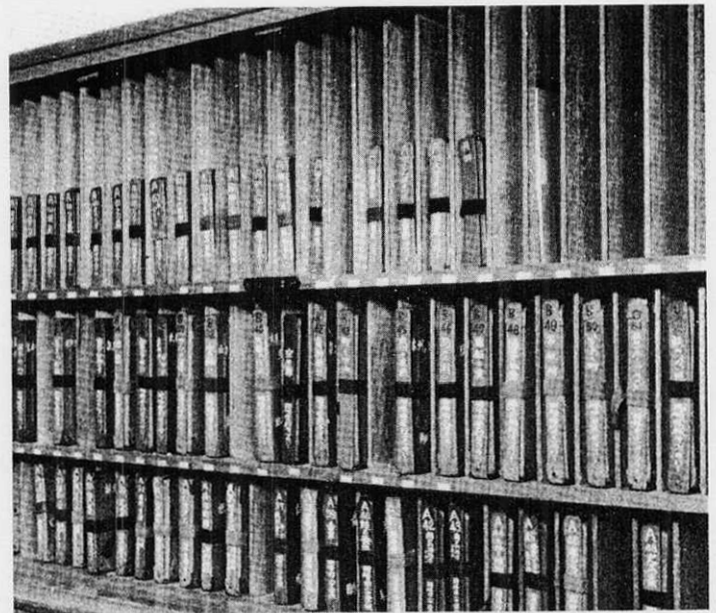
教育出版



▲今も続く16mm映写機の講習会



▲懐かしの北辰映写機（昭和29年）



▲美川中の16mmフィルム棚



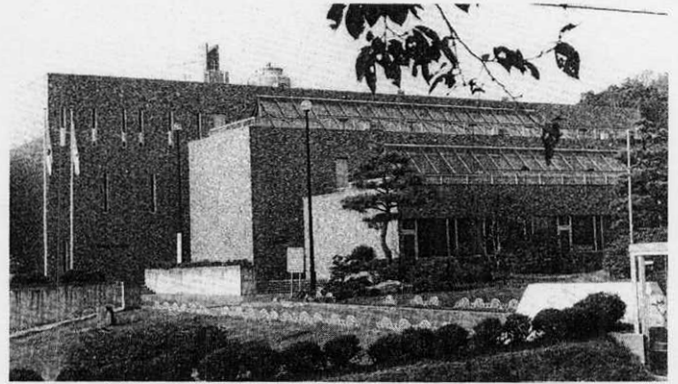
▲旧講堂を利用した梅園小学校の事務局（昭和42年）



▲映画鑑賞会



▲オープンデッキを使用したビデオ編集



▲市立図書館へ移転（昭和47年）

昭和二十九年、「市内小中学校の視聴覚教育の推進に寄与する」ことを目的として、岡崎市小中学校視聴覚教育協会が設立され、事務局が美川中に置かれた。主に、十六ミリ映画の機材やフィルムを整備、操作等の指導を行った。三十五年ころから、八ミリ映写機や撮影機の整備・活用にも力を入れ、翌年には、自作による八ミリ映画の制作も始まった。

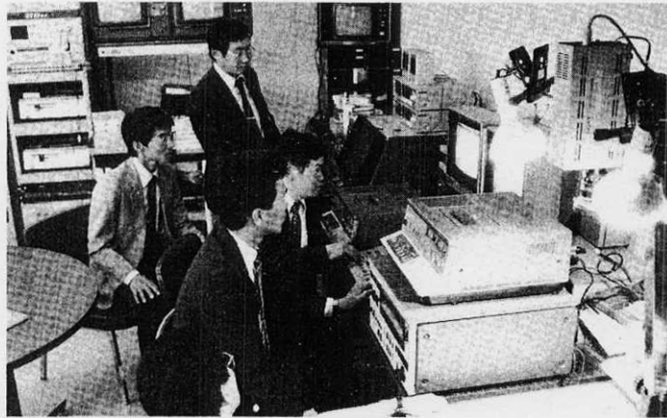
四十一年、オープンリールVTRの導入。翌年、事務局が梅園小へ、四十七年には市立図書館へ移転された。

四十八年、協会は公立化され、岡崎市視聴覚ライブラリーに改称された。翌年、カラービデオカメラの購入と同時に、自作ビデオ教材の制作も始められた。

五十三年には、事務局は市役所七階へ移転した。翌年にカセット方式のVTRが登場すると、軽さと使いやすさから、教育の場面でも広く利用されるようになった。

六十一年、太陽の城へと移転した。同年、パソコンを導入し、研修やソフト開発も手がけるようになった。

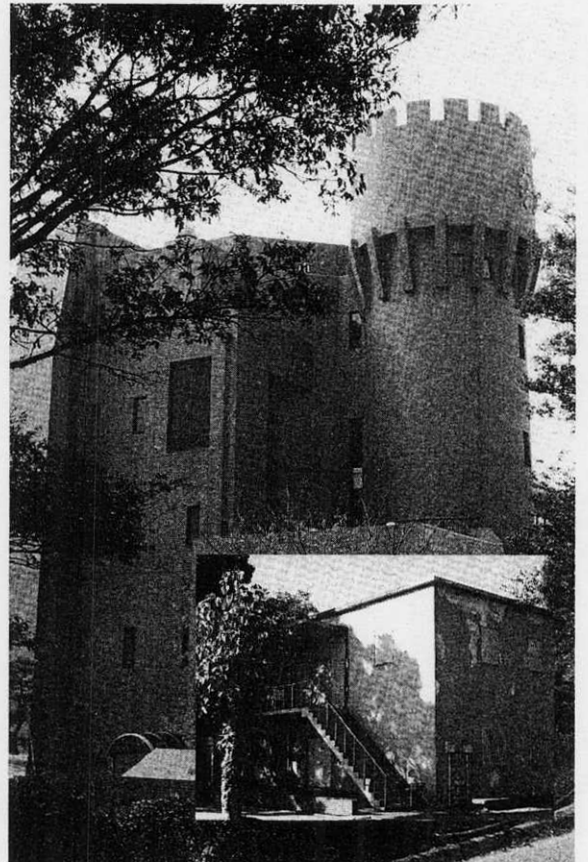
近年、教育に用いられる機器の発達が目ざましい。視聴覚ライブラリーは、最先端の機器の研究・整備・各種講習会の開催など、機器と学校教育との橋渡しの役割を果たし、その成果は高く評価されている。また、自作ビデオ教材の制作への協力、作品の保管やデータベースサービスも、大きな仕事の一つである。



▲カセットデッキを使用したビデオ編集



▲自作ビデオの撮影



▲太陽の城へ移転（昭和61年）



役になりきる

生平小学校

大海 あい子

「ぼく、どうしても兵十の役がやりたい。」

『ごんぎつね』の劇の役を決めるとき、こう申し出たT男の意志は固かった。

私は、T男が場面読みの中で兵十の心情を鋭くとらえているのを知っていただけに、学芸会の劇でもそれが発揮されることを期待した。

T男が演じるのは、この話のクライマックスの場面でもある、火縄銃でごんを撃つ兵十と決まった。ごんを撃つ前と後の兵十の心情の違い、それを観客にいかに伝えるかがT男の演技力にかかった。

初めのころは気恥ずかしさも手伝い、自分の役に今一歩身が入らなかつたようだった。そこで、兵十の気持ちを考えながら、演技として表現で

きる練習を多くした。

「この時、兵十はどんな声を出したんだろうね。」

「ごんに気づかれない歩きかたってどんなだろう。」

そのたびにT男は反応した。

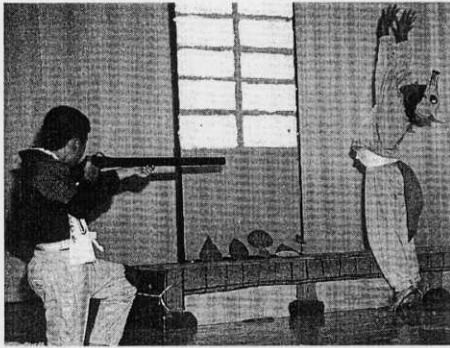
「この時を待っていたというように、ほくほくした感じ

で言ってみるといいかな。」

「腰を低くして静かに歩くとぴったりするな。」

考えては動作し、動作してはまた考える。しだいに、T男の演技は練り上がっていった。

本番のT男の演技は観客の目を潤ませた。自分の役にかける熱意を観客に感じさせるまでに成長したT男を、舞台の袖で私も潤む目で見ていた。



顔・三つ

南中学校

南野 薫

「ばーかこけー。」厳しいが嬉しくなる、こんな叱責の言葉が他にあるでしょうか。

南中学校に赴任した当初は、美術部長のイメージと南校長とのあまりの差に、校長室に入ることさえできなかったものです。職員会などでは、言葉を選びながら話すその話

され方は、他を威圧するには十分な迫力がありました。強い校長の顔がうかがえました。

おかげさまで子展の生みの親の一人である先生。子展ができる前からの話を聞かせていただいていた。話されるその表情には、やんちゃ坊主の顔がありました。だから、やんちゃな生徒を校長室へ入れることもできたのだと思います。

私自身、「こうしなさい」と

いう指導を受けた事がありません。十分な働きをしていない

時に、温かい言葉をかけてくださったことが、反対に自分を

戒めるきっかけになっていたように思います。見ていない

ふりをして、いつもどこかで見ていてくださった優しい顔。

授業で忘れ物をした生徒がその言い訳をした時、思わず「ばかこけー」と私。どこかに先生を

追っている所があるようです。

「おーい、南のくん
元気かい」

元南中学校長

宇佐美 利郎

去る九月、体育祭の案内状を頂き、久しぶりに南中を訪れ、

皆さんの健在ぶりに接し、楽しい一時を過ごすことができました。

早いもので退職して五年目

を迎え、三十六年の教員生活最後の年を送った南中の顔と、好天に恵まれ運動場一ぱいの若々しい顔が重なり合い、速成浦島の気分でした。

永い教員生活のうち最後の四か年の南中の日々は、感動と充実の連続であったと思います。これは、皆さんが昼夜の別なく「常在学校」を旨とし実践してくれたお陰と思い、忘れることができません。

私は教職三年目に、ある師を訪れ「教育について」教を請うたことがあります。「教育の道は、十年を一つの節と考え、実践あるのみ。決して口先だけの教師になるな。十年の経験は、必ず何らかの方向が見えてくる。そこで十年のまとめをすることだ。生徒は教師の言動を一番よく見ている。教師と生徒の信頼関係はここから生まれるものだ。」この教えは今も私の脳裏から離れません。

南のくん、特に美術教師は空腹感に耐え、実践することによって創造力は養われると思う。いつまでも元気です。

お知らせ



健康優良児童生徒

- 優秀賞
 (小学校) 石井 正人 梅園 中山 啓子 男川 林 潮根石 犬塚 結理 岩津 服部 賢二 六名 近藤あかね 大樹寺 廣瀬 大輔 竜谷 児島 美鈴 矢東 瀧村 大輔 細川 内田まり子 上地 (中学校) 村上 智徳 南 谷口 由喜 南 鈴木 鏡二 福岡 河口恵理香 葵 鈴木 邦昭 東海 水野由加里 矢作 鈴木 泰史 矢作 味岡 真美 竜南 大山千加良 北 杉本 恵子 六北

愛知県健康推進学校

特選(小規模校) 恵田小学校

◆全国緑の少年団活動発表大会

みどりの奨励賞受賞団体

◆FBC秋花壇コンクール

◆第四十七回赤い羽根協賛児童生徒

◆第二十八回手紙作文コンクール

◆第四十七回赤い羽根協賛児童生徒

作品コンクール

書道の部

朝日新聞社名古屋厚生文化事業団賞

連尺小六年 大竹 謡子

緑丘小二年 栗田 一步

第34回岡崎市小学校陸上競技大会

総合	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	広幡	井田	矢南	常磐	六北	大門
女子	上地	井田	矢南	矢東	六南	広幡 六北
種目	選手名	校名	記録			
5年100m	中山 満	大樹寺	13"7			
100m	井 畑 浩	常 磐	13"4			
80mH	林 雅之	六 北	12"9			
1,000m	鈴木 琢也	三 島	3'08"1			
走り幅跳び	柴 田 琢能	広 幡	4m70			
走り高跳び	村 松 秀都	小豆坂	1m46			
ソフトボール投げ	斉 藤 俊雄	羽 根	69m58			
400m R	城 殿・安 藤	広 幡	54"2			
5年100m	内 田 琴美	北 野	14"3			
100m	原 田 康世	井 田	14"3			
80mH	本 田 奈々	常 磐	14"2			
1000m	小 坂 梨予	根 石	3'25"7			
走り幅跳び	畔 柳 里恵	六 名	4m23			
走り高跳び	新 海 麻衣子	矢 東	1m46			
ソフトボール投げ	小 林 かの子	上 地	46m47			
400m R	原 田・加 藤	井 田	57"5			

第28回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美北	常磐	南
	女	福 岡	葵	六ツ美
バスケットボール	男	城 北	矢 作	葵 甲 山
	女	甲 山	南	矢 作 北
バレーボール	男	矢作北	竜 南	東 海 六ツ美
	女	六ツ美北	矢 作	竜 南 甲 山
ソフトテニス	男	城 北	東 海	矢 作 矢作北
	女	新香山	福 岡	城 北 六ツ美
卓 球	男	矢作北	竜 海	六ツ美北 南
	女	常 磐	六ツ美北	岩 津 葵
体 操	男	竜 海	甲 山	……
	女	甲 山	竜 海	矢作北
新体操	男	東 海	竜 海	……
	女	甲 山	竜 海	南
剣 道	男	葵	南	矢作北 福 岡
	女	六ツ美北	竜 南	南 竜 海
ハンドボール	男	竜 南	六ツ美	城 北 葵
	女	竜 南	美 川	新香山 葵
軟式野球	男	美 川	南	城 北 北
ソフトボール	女	矢作北	城 北	南 葵
柔 道	男	六ツ美北	竜 海	甲 山 北
サッカー	男	新香山	竜 南	南 甲 山
	女	矢作北	竜 海	葵
水 泳	男	矢作北	竜 海	……
	女	甲 山	城 北	矢作北

第39回愛知県統計グラフコンクール

第1部(小学生1年~3年) 金賞

森 下 翔	矢作東	1年
小林 久美子	六北	3年
小神 谷 佑	三 島	1年
村 鶴 前 太	高 島	3年
太 田 小 律	三 島	3年

第2部(小学生4年~6年) 金賞

安 藤 園 恵	三 島	6年
志 藤 村 佑	三 島	4年
太 田 井 水	福 岡	6年
櫻 清 加	大樹寺	5年
加 藤 宏 貴	六美南	4年

第3部(中学生1年~3年) 金賞

中 根 王 喜 竜 海	1年	
加 藤 大 淳	津 津	3年
天 野 好 真	六 北	2年
佐 野 中 泉	六 北	2年
今 土 居 美 由	六 北	3年
小 堺 愛	六 北	3年

パソコン統計グラフの部(小学生以上)

清 原 水 田 雄	二 矢北中	3年
神 谷 誠	矢北中	3年
杉 林 恵 子	六北中	3年
川 井 利 彦	六北中	6年
高 新 津 直 希	井田小	6年
石 川 雅 智	井田小	6年
小 江 之 之	矢北中	教員

「頑張ってね。」「大丈夫かい。」戦前から息づく藤棚の声は、今もなお、限りなく温かい。



深津吉堯氏 蔵

昭和四十九年の秋、技術・家庭科作品展は誕生した。第一回の案内状の中に、誕生のエネルギーを感じる。

- ・表紙写真
- ・表紙詩
- ・カット

大門小
大門小
矢作西小

藤井哲也
佐藤優美
早川周宏

第1回 技術・家庭作品展 案内状

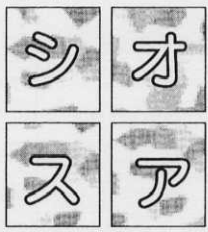
冒頭に「生活を明るく豊かにするために 使用目的・条件に応じて 材質を生かし アイディアを凝らし 技術を駆使し 頭とからだを使い 真心をこめてつくりあげた作品 みてください」という案内文がある。厚紙の案内状に、そのすべてが凝縮されている。目が回るような表紙。一枚の紙を順番に開く工夫、黒白を巧みに使い分けたページ、ペンがきの鳥かん技法による案内図など、「みてください」のことが具現化されている。当時の展示物には、製図があり、パソコンはない。会場は初期が城北会館、その後市体育館、さらに現在の中央総合公園の武道場となった。展示も、生徒による作品発表やパソコンの操作など、生徒が活動する方向に変わった。不変なもの、第一回にあった「真心をこめてつくりあげた作品」である。

この本を

- *わが千年の男たち 永井 路子 ￥1300
文藝春秋
- *こどもはおもしろい 河合 隼雄 ￥1600
講談社
- *君について行こう 向井万起男 ￥1800
講談社
- *犠牲 柳田 邦男 ￥1400
文藝春秋

*折り返し点からの発想 木村尚三郎 ￥1400
PHP研究所
「戦後五十年」は、今マスコミの世界で花盛りである。戦後の復興、追いつけ追い越せの科学技術と経済成長、肩ひじ張った競争が終焉を迎えた時、進むべき方向がわからなくなった。
戦国・江戸の500年までに視野を広げて振り返れば、開かれた未来が見えると著者は言う。知識から知恵、閉鎖から開放、物から人への思考の変換が必要と説く。
「一文一姿」の執筆の姿勢が、文章に説得力をつけている。

「大人になんかなりたくない。このまま中学生のままでいたい。」とだだをこねた生徒。反抗期を口実に家でも学校でもわがままを言って担任を困らせた生徒。でも今は、進路決定を控え、神妙な顔をして大人への準備をしている。がんばって。あと一息だ。



「自分を一番表現しやすいのが漫画だ。」と、いしはらさん。世の中の中の「当然」を一つ一つ疑っていく。笑ってる自分が、笑われている自分かもしれないという発想は、道を究めた人ならではの発想である。我々も発想の転換をしなくては…。

アシスタント。学校教育からいえば、視聴覚ライブラリーの仕事はそう呼べるかもしれない。自作ビデオや十六ミリフィルム・様々な機材を、必要なとき、すぐ提供する。目立たないが、教育現場になくはならない、大切なアシスタントである。

ストーブが動き出す季節。学校では安全と健康を考え、屋外に排気するFF式のものを使用。だるまストーブの時代を含めても、暖房のない時代の方がはるかに長い。あかぎれの手をこすりながら、鉛筆を握った姿を、今の子供は想像できるだろうか。